

町議会行政視察報告

7月25日から26日の2日間、町議会の中山中学校改築特別委員会による行政視察が行われました。その視察内容について報告します。

秋田県横手市（横手北中学校）

（中山中学校改築特別委員 鎌上 徹）

7月25日は秋田県横手市立横手北中学校を視察しました。

横手北中学校は横手市の北西部2キロほどに立地しており、今年4月に鳳中学校、横手西中学校、金沢中学校の3校が統合し、横手北中学校として開校しました。開校時の生徒数は306人、普通クラス11クラス、特別支援学級2クラス、通級指導教室1クラスの14クラス編成となっています。

校舎は2階建てで、木漏れ日の広場という中庭を持ち、生徒用玄関を入ると2階への左右の階段と広い交流広場があり、その奥には

ガラス張りの中庭が見える開放的なスペースとなっていました。

職員室は2階にあり、各学年1ユニットとなっており、ユニットごとに多目的スペースが用意され、広くとられている廊下を利用しスペースをさらにとりバルコニーと組み合わせて、ここもまた中庭を見られる明るい開放的な場所となっていました。各学年ユニットには、今後の生徒数増に対応するため、学習室として普通教室と同じ広さの教室が1つ用意されています。

体育館はバスケットコートが2面取れる広さとなっており、2階と1階には観覧スペースも用意されています。その他に、バレーボールのコートが1面取れる広さの小体育館と武道館があります。

グラウンドは400mトラックとその中に天然芝のサッカーコート

トがあり、他にも両翼90mの野球場、人工芝のテニスコートが3面用意されていました。

それら体育施設に囲まれるように380台分の駐車場があり、学校行事に十分対応できるようになっていました。駐車場に関しては、今後併設予定の小学校の分も含まれているため、非常に多い駐車可能な広さとなっているとのことでした。

建設発注方法は、本体工事、電気設備工事、機械空調設備工事、屋外体育設備工事の4本について、各工事ごとに市側がJ-Vの結成を依頼し受注希望型指名競争入札で落札者を決定していました。

当初8本の工事発注を予定していましたが、工期の短縮及び工費の縮減を図るため、4本にまとめて発注したとの説明がありました。

今まで視察してきたこの中学校でも発注方法は分離発注で、地



元業者に落札してもらえよう配慮していました。管理が難しい発注方式ですが、地元の業者でできる仕事は地元にといいことが望まれると思うので、発注方式については当町でも取り入れていくべきだと思いました。

教室で使用する机や椅子は全て既製品で、特別注文の木製もいいとは思いますが、将来的に買い足したりする場合、既製品を使用する方がメリットも多いと思います。

太陽光発電パネルが校舎南側壁面に設置されており、施工業者も壁面での発電効率に疑問があったが、冬期間の発電が雪の反射で想像以上の発電結果となっているそうです。発電パネルの設置については、当校も参考にすべきだと思えました。

全校床暖房で、体育館は遠赤外線暖房となっており、職員室、保健室及び会議室はエアコンが入っていますが、他の教室等には冷房設備は設置されていませんでした。これからの温暖化等を考えると床暖房も魅力的ですが、冷房設備は必須と思われました。

秋田県秋田市（秋田北中学校）

（中山中学校改築特別委員 渡辺博文）

7月26日は秋田市立秋田北中学校を視察しました。

秋田市は日本海に面する秋田県南北のほぼ中央に位置し、中山町からは国道112号・国道7号・東北自動車道のいずれを利用して約4時間を要し、距離は近いものの東北自動車道で東京に行く時間ほどもかかる時間的には非常に遠い感じがする街です。

秋田北中学校は秋田市に27校ある中学校のうち、平成21年3月に完成した秋田市北端にある中学校です。これまで視察してきた、北海道札幌市の『勇舞中学校』や福島県矢吹町の『矢吹中学校』、福島県小野町の『小野中学校』と同



駐輪場についても、冬期間はピロティーとして部活動で使用できるようにしているとのことでした。全体像が決まった当校でもまだまだ取り入れていくべき点があり、できるだけ子ども達が使いやすく勉強しやすい校舎にしていくことが大切だと思います。

じょうに、昨日視察の秋田県横手市『横手北中学校』の外観は、かなりこだわったと思える淡いブルー調やページジュ系の塗装が施された明るい感じの学校でしたが、この度の『秋田北中学校』は、外観は全てコンクリート打ちっばな

しの4階建てで、学校というより要塞のような造りの、近年ではあまり見なくなった外観です。校舎内部もコンクリート打ちっばなしの箇所がずいぶんあり、完成から4年半経過しているにもかかわらず、会議室やその付近の廊下などはまだセメント臭が残っている状況でした。

●概要・工事費・建物面積：校舎棟が鉄筋コンクリート一部鉄骨造4階建て、体育館は鉄筋コンクリート一部鉄骨鉄筋コンクリート造2階建てで延床面積は約6570㎡、総事業費は約19億円。

●発注方法：分離発注方式の指名競争入札で、基本的には地元業者優先。

●設計（基本設計・実施設計）・建設で特に考慮した件：『配置計画』では仮設校舎を設けず、既存校舎での運営をしながら新校舎を建設するための配置とした。『平面計画』では、中庭を設け、校舎と体育館を一体にすることで、コンパクトでありながら光と風の通り抜ける伸びやかな学習環境を確保する。『バリアフリー計画』では、アプローチ部分に融雪装置を設置、エレベーターや多目的便所の設置など。『暖房設備計画』では、



都市ガスによる全館暖房で、多目的ホールと普通教室は床暖房、特別教室はファンコンベクタ温水暖房、体育館は輻射暖房。

私見ですが、一つはこの学校の現在の全生徒数が283人で、延床面積が中山中学校の設計とほぼ同じであり、面積／生徒数レシオ（割合）は極めて贅沢と言えます。視察時に、多目的ホールで授業を行っていましたが、全員が隅のほかに寄って授業をしているように見えるほど広い空間でした。二つ目は事業費／面積レシオ（割合）が中山中学校改築予定の3分の2ほどで、給食センターがないことや、あるいは震災前だったことを考慮しても、安すぎるのではないかと訝わざるを得ない学校でありました。